

# 新称ベニバナヒメリンドウ *Centaurium pulchellum* Hill. について

横 山 雅 一\*

1988年6月に、JR土山駅で偶然上記植物をみかけた。最初は車窓からなので、ムシトリナデシコぐらいに思っていたが、気に入り、7月7日に現場を訪れ採集した。

花はうすい紫紅色で小さく、径6mm。筒状花でリンドウ科のものであることが確かめられた。

標本を子細に検討し調べたところ、ヨーロッパ原産の *Centaurium pulchellum* Hill. であることがわかった。それとともに、本種は、JR土山駅だけでなく姫路市大塩にも生育していることが確認された。これらの生育現場から類推して、土木工事に伴う資材や緑化などの種子に混入したものか、貨物に付着した種子が落ち繁殖したものと考えられる。したがって今後、兵庫県内をはじめ各地で見られるようになるものと思われる。

なお、本種には和名がないので、花の特色や、色彩などからベニバナヒメリンドウとよぶことにした。

本来ならば草姿、花色からみて、ベニヒメリンドウが適当と思われるが、園芸種苗として近年導入された、花色が青紫色であるリンドウ科のソコトラ島原産の1年草の *Exacum affine* Balf. がベニヒメリンドウとして紹介されている。したがって混同を避けるためベニバナヒメリンドウの和名を選んだ。

ベニバナヒメリンドウ *Centaurium pulchellum* Hill. の特徴

ヨーロッパ原産の、高さ25~40cmに達する1年生ときに多年生の、乾燥に強い草木である。



葉身は、茎の下部のものは、楕円状卵形で先端は鋭型。上部のものは、長楕円状波針形で先端は鋭尖である。ともに葉身縁辺は全縁、茎に対生してつく。花期は、7月~9月と比較的長い。花は筒状花で先端5裂して花弁状で、淡紫紅色ないし淡紅色。花径5~6mm。雄蕊は萼筒につき5本で、葯は長さ0.5mm。やや螺旋状。花糸の長さ3mm。雌蕊は子房上位で2室。柱頭は先端2分し球状。

## 参考文献

- Marjorie Blamey: 1980. The wild flowers of Britain and Northern Europe. p.180-181. London.  
林 弥栄、古里和夫: 1986. 原色世界植物大図鑑. p.34. 東京. 北隆館.

\* 神戸市東灘郵便局, 神戸市垂水区つつじが丘1-9-3